



～ 夢ひとすじに ～  
**宮原中だより**  
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

令和 6 年度 第 7 号  
令和 6 年 1 1 月 1 日 (金) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp

## 『駅伝』

校長 田 中 和 浩



『駅伝』とは、数名の選手がチームをつくり、長距離をリレー形式で走り、その時間を競う陸上競技です。大きな特徴は、区間を走り終えるごとに、前の走者から受け継いだ「襷（たすき）」を次の走者に託すところにあります。

駅伝の語源は古く、律令時代に唐の制度に習い取り入れられた「伝馬」や「駅馬」の制度がそれにあたります。馬を使い

中継所となる駅を行き来し、各地と情報のやり取りをしていました。鎌倉時代から整備された「飛脚」の制度などは、その系譜といえます。

日本で最初に競技として行われたのは、1917年（大正6年）のことです。「東海道駅伝徒歩競走」といい、全23区間516kmのコースで行われました。このとき、はじめて東海道五十三次の「駅」を伝うというところから、「駅伝」と名付けられました。

駅伝は、各区間を1人で走る自分との戦いであり、またチーム一丸となり「襷（たすき）」をつなぐために必死で区間を走り抜ける戦いでもあります。このように、1人1人がチームのために励む姿が、多くの日本人の心を掴んでいるのです。

駒澤大学駅伝部を長く率いている大八木弘明総監督は、「箱根駅伝に出場している伝統校や連覇を成し遂げている強豪校には『チームのために』という目に見えない力が受け継がれていように感じます。どんな選手も『自分のために走る』『仲間やチームのために走る』という二つの思いを持っていますが、本当に苦しくなった最後の瞬間にどちらの思いが勝るかによって、結果は変わってきます。」（致知出版社HPより）といっています。また「前を追いかけても、全然背中が見えない。それでも気持ちが切れない選手が強いんです。」（箱根駅伝勝利の名言：生島淳著より）ともおっしゃっています。

個の力を結集してチームの力とする姿を観て、私たちは大いに感動します。また、彼らの姿に、いつも、勇気をもらえる気持ちになります。毎年1月2日、3日に行われる箱根駅伝で、今年はどんなドラマが繰り広げられるか楽しみです。

10月22日（火）に、さいたま市立宮原中学校駅伝競走大会が実施されました。学校を代表して男女チームが参加し、女子第2位（県大会出場）、男子第11位（6区区間賞）の成績を収めました。チームとして参加してくれた生徒のみなさんの成果を称えとともに、感謝を申し上げます。

### 「風が強く吹いている」三浦しをん作

「駅伝」にちなんで、小説を1つ紹介します。三浦しをん作「風が強く吹いている」です。大学4年生で、竹青荘の寮長を務める清瀬灰次（キョセ ハイジ）は、破格の家賃で寮に住まわせる代わりに陸上部に入部する、という条件で9人の住人を集めます。ある日、ハイジは、9人の住人とともに箱根駅伝出場を目指す計画を打ち明けます。陸上経験がないメンバーがほとんど。9人は、その無謀な計画に反対しますが、次第に、ハイジの熱意が彼らを変えていきます。よかったら、読んでみてください。